

教皇フランシスコのすすめ

2020年5月14日(木)

校長 田沢 幸夫

休校が続いています。生徒、保護者の皆さんはいかがお過ごしでしょうか。オンライン授業が実施されていますが、学校で生徒たちの元気な姿を見ることができないのは、やはり寂しく感じます。生徒の皆さんも、学校に行けない、部活ができないという状況に、ストレスを感じているかもしれません。それでも、この現実を受け入れて前へ進むことが大切だと思います。

キリスト教では、4月12日(日)が復活祭(イースター)でしたが、カトリック教会での公開ミサは行われませんでした。イタリアのバチカンでも、教皇フランシスコのミサには、会衆の参加はありませんでした。この特別な状況において、教皇は全世界の人々に次のようなメッセージを発表しています。

今は無関心でいるときではありません。なぜなら世界中の人々が苦しみのただ中で、パンデミックに立ち向かうために結束しなければならないからです。復活したイエスが、すべての貧しい人、社会の周縁にいる人、難民やホームレスの人に希望を与えてくださいますように。世界のあらゆる地域の都市や周縁部に住んでいる、もっとも弱い立場にあるこれらの兄弟姉妹が独りで取り残されることがありませんように

今は、自分のことばかり考えるときではありません。わたしたちが直面している危機は、わたしたち全員を一致させ、だれも分け隔てさせないからです

このように、教皇フランシスコは、無関心や利己主義を乗り越えて、苦しんでいる人々、弱い立場にある人のことを考えるように勧めています。

今、学校の廊下には、次の聖書の言葉が掲示されています。

苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生む。(ローマの信徒への手紙 5.4)

今は困難な時ですが、この聖書の言葉のように、希望をもって毎日を過ごしてください。家庭で過ごす時間が長くなっているので、お互いの忍耐と思いやりが必要になります。

神が皆さんの家庭を祝福し、困難を乗り越える力を与えてくださるようお祈りします。